

# こなん水辺公園ニュース

2009年7月号(通算第1号)

こなん水辺公園解説員グループ編集

## 自然解説員の配置から3ヶ月

こなん水辺公園に自然解説員が配置されてから3ヶ月が過ぎました。現在は5名による持ち回りで土曜と日曜日のみ駐在しています。解説の際は、水鳥などの野鳥の観察を中心に園内を回っていますが、子供たちには水生昆虫やメダカの観察などをしてもらっています。まだまだ勉強不足ですが、日々努力しておりますので、よろしくお願ひいたします。おもに河北潟の野生生物の研究を行ってきたメンバーが担当していますが、ビジターへの対応という点では、不慣れなところもありますので、至らないところがありましたら、どうかご容赦ください。

ビジターセンターとしての機能を持たせるために、管理学習棟のエントランスに、現在の公園内でみられる野生生物についての情報を掲示するようにしています。公園を訪れた際には、ぜひこの掲示をご覧ください、園内の探索を楽しんでください。前月の情報はこのニュースの裏のページに掲載しています。解説員は名札を首からぶら下げていますので、どうぞお気軽に声をかけてください。

## 河北潟ミニ植物園

古民家を移築した管理学習棟は、こなん水辺公園のシンボリックな建物ですが、この建物の入り口と左手に、いくつかの水鉢が置かれています。まだ整備中で、説明書きもありませんが、これは、河北潟と周辺に自生していた、かつて自生していた水生植物を移植したものです。「河北潟ミニ植物園」と名づけています。一見ただの雑草ですが(実際にもそうですが...)、今では大変貴重な植物も含まれています。いずれ説明版を設置したいと考えています。今は、小さな名札がついていますので、それで名前を確認してください。6月にはヒツジグサが花を咲かせていました。これからは、アサザの黄色い花が見られるかもしれません。



## 水路へのミズアオイの植えつけ作業

6月7日と7月12日に管理学習棟裏の水路に、石川県絶滅危惧植物のミズアオイの移植を行いました。昨秋に津幡町の農業用水路で採取したミズアオイの種子があり、これを発芽させてつくった苗を使いました。管理学習棟の裏側には、この公園を建設したときに設置された細い水路があるのですが、土砂で埋まったり、また外来種のチクゴスズメノヒエに覆われたりして、水路がほとんど見えない状態になっていました。この水路を何とか再生すると、外来種の除去と、希少な水草の生育場所を作りながら、また公園を利用する人にも公園に親しみをもちたいという欲張った趣旨に基づいて作業を行いました。



何とかチクゴスズメノヒエを除去し、溝を掘ったときには、水がたまって良い状態でしたが、この水路の水源の水が不足しており、一度干上がってしまいました。工夫しながら2度目の作業を行って、少

し大きくなったミズアオイの株を植えています。現在の状態は、下の写真のとおりです。8月の湧水期に向けて水遣りボランティアを募集中です。



## 残念な芝生のネジバナの群生

管理学習棟裏の芝生は農薬を使っていないことからいろいろな草が生えています。ネジバナもその一つです。6月までは見事な群生が芝生の中に見られましたが、公園の芝生の管理上、芝生と一緒に7月になって刈り取られてしまいました。自然解説の際にお客さんを案内しようと思っていたので、ちょっと残念です。



6月の生きもの情報 (管理学習棟エントランスホワイトボードから)

# 6月の生きもの情報

- オオヨシキリが管理学習棟近くでキョシキョシさかんになっています。
- ツバメが一生懸命飛びながら虫を食べています。
- カッコウの鳴き声が聞かれました。
- カイツブリやハンの親子が見られました。



←カイツブリの親子  
(6月3日)



ツバメ



ニワゼキショウ  
(2009. 6月7日)



甲らぼしする アカミガハ (09.5.24)



羽を休ませ) ちりしつしつ  
(2009.5.16 (土) <9>)  
10羽いました。  
警戒心が強く、すぐに飛ぶので、何事も至近場に飛来しました!

ミニ植物園  
河北潟周辺で絶滅が危惧されている植物が鉢植えされています。



←ミニ植物園にあるヒツジクサの花です。お盆ころに花が開きます。

ハスの花  
きれいです




オオヨシキリ

発行 2009年7月12日  
 制作 こなん水辺公園解説員グループ (NPO 法人河北潟湖沼研究所内)  
 連絡先 〒金沢市二口町八58 河北潟湖沼研究所 TEL.076-261-6951